

理事長挨拶



社団法人 大正琴協会理事長 海部俊樹

暑さ厳しい中、会員の皆様には益々ご健勝のことと心からお慶び申し上げます。

平素は会員、愛好者の皆様には社団法人大正琴協会の会務運営に格別なるご理解とお力添えを賜り厚くお礼申し上げます。

ところで、大正琴が誕生したのは1912年(大正元年)、その頃の日本は最初の南極観測隊が南極に上陸したこと、銭湯には富士山のタイル絵が流行、音楽でのヒット曲では茶摘、汽車、春の小川、村の鍛冶屋が流行したと記されており100年の重みが蘇ってきます。

隣国についてお話しすれば、先祖たちは韓国からの人と人との交流により多くの文化を学びました。それは、江戸時代、朝鮮通信使が400～500人規模で全国各地に文化を伝えたり交流したり、また、江戸幕府の慶事のたびに来日、多くの絵巻「屏風」で文化交流が紹介されているところでもあります。これは互いの文化を尊重し文化交流を深めた証と思いますし、日本に多くの先進技術をもたらしたことであります。

私は今まで世界の多くの国を訪問しましたが、人と人の結びつきが如何に大切であるかこの韓国との朝鮮通信使で特に感じるところであります。

今日、生涯学習は高齢化社会の中、各行政においても生涯学習の担当セクションを設け、生涯学習の啓発に乗り出しております。大正琴はそのような意味合いにおいて、人と人が交流し合い気軽に学べ、一生涯付き合える楽器であります。

最後に、皆様の一層活発な活動により、益々この大正琴が広まることを期待申し上げますとともに、会員の皆様のご多幸を祈念申し上げます。挨拶とします。

第33回通常総会議事録

1. 日 時 平成21年6月3日(水)
開会 午後1時00分
閉会 午後1時50分
2. 場 所 名古屋市中区錦三丁目11番13号 名古屋ガーデンパレス
3. 出席状況 会員の総数4,379名
出席会員数 3,462名(委任状含む)

4. 議事の概要

(1)開会

定刻に、司会者の岩間昌一常務理事が挨拶。

北林豊常務理事が、開会を宣言。

(2)挨拶

加藤英也副理事長が挨拶。

海部俊樹理事長の政策秘書佐々木昭雄氏が挨拶。

(3)議長選出

司会者が、議長選出方法を議場に諮ったところ司会者一任の声あり。よって、加藤英也副理事長を本総会の議長としたい旨諮ったところ、全員一致をもって選出し、同氏はこれを了承し議長となった。議長は、事務局に出席状況の報告をさせた。議長は、正会員現在数の2分の1以上の出席があったので、本総会が成立した旨を述べた。

(4)議事録署名人名選出

議長が、議事に先立ち議事録署名人名2名の選出について諮ったところ、議長一任の発言があり全員異議なく賛成したので、議長は、鈴木萬司名誉会長及び平野芳男常務理事を指名し、これを議場に諮ったところ、全員異議なく承認した。

被選任者らは、いずれもこれを承諾した。

5. 議事

第1号議案 平成20年度事業報告承認に関する件

議長が、横幕睦常務理事に本件議案の説明を求めた。

同氏は、予め配布した資料をもとに平成20年度事業報告について、詳しく説明した。

以上につき議長が、議場に質問、意見を求めた後、その可否を議場に諮ったところ、全員一致をもって原案どおり承認可決した。

第2号議案 平成20年度収支決算承認に関する件

議長が、浅井信人事務局長に本件議案の説明を求めた。

同氏は、予め配布した資料をもとに事業報告について、詳しく説明した。

引き続きて監事を代表し、遠島敏行監事が、計算書類及び理事の職務執行状況を綿密に調査したところ、いずれも適正妥当であることを認めた旨を報告した。

以上につき議長が、議場に質問、意見を求めた後、その可否を議場に諮ったところ、全員一致をもって原案どおり承認可決した。

6. 閉会

以上をもって、社団法人大正琴協会第33回通常総会の議案の全部を修了したので、議長は議場にその協力を謝し、降壇した。そして、北林豊常務理事が閉会を宣した。

上記決議を明確にするため、議長及び議事録署名人名は次に署名押印する。

平成21年6月3日

社団法人大正琴協会 通常総会

議 長 加 藤 英 也 印

議事録署名人 鈴 木 萬 司 印

同 平 野 芳 男 印

正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

平成20年4月1日～21年3月31日

I 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部

(1) 経常収益

基本財産運用益	98,080円
入会金	245,000円
会費収入	24,822,000円
生涯学習フェスティバル	10,000円
国民文化祭	11,845,800円
補助金収入（日本財団助成金）	3,500,000円
雑収入	330,274円
出版物収入	0円
経常収益計	40,851,154円

(2) 経常費用

① 事業費

全国生涯学習フェスティバル（演奏会）	5,707,381円
全国生涯学習体験学習出展	991,215円
イベント助成費	1,000,000円
学校等における大正琴普及事業	4,251,512円
普及功労者表彰事業	799,913円
協会主催 講座・講演会事業	265,420円
講座等助成費	655,000円
国民文化祭	11,845,800円
指導者研修会	366,197円
100年事業準備金	190,873円
調査研究事業	640,970円
機関紙発行	374,720円
パンフレット制作	161,700円
ホームページ制作	175,035円
事業費用計	27,425,736円

② 管理費

管理費用計	15,556,516円
経常費用計	42,982,252円

2. 経常外増減の部

(1) 経常外収益計	0円
(2) 経常外費用計	0円
当期経常外増減額	0円
当期一般正味財産増減額	-2,131,098円
一般正味財産期首残高	16,311,051円
一般正味財産期末残高	14,179,953円

II 指定正味財産増減の部

当期指定正味財産増減額	0円
指定正味財産期首残高	25,000,000円
指定正味財産期末残高	25,000,000円

III 正味財産期末残高	39,179,953円
--------------	-------------

平成20年度収支計算書

平成20年4月1日～平成21年3月31日

I 事業活動収支の部

1. 事業活動収入

事業活動収入合計 40,851,154円

2. 事業活動支出

事業費支出計 27,425,736円

管理費支出計 15,550,993円

事業活動支出計 42,976,729円

II 予備費支出

0円

当期支出合計 42,976,729円

当期収支差額 -2,125,575円

前期繰越収支差額 15,286,375円

次期繰越収支差額 13,160,800円

貸借対照表

平成21年3月31日現在

I 資産の部

1. 流動資産合計 13,614,581円

2. 固定資産

基本財産合計 25,000,000円

その他の固定資産合計 1,022,541円

固定資産合計 26,022,541円

資産合計 39,637,122円

II 負債の部

1. 流動負債合計 457,169円

III 正味財産

1. 指定正味財産合計 25,000,000円

2. 一般正味財産合計 14,179,953円

正味財産合計 39,179,953円

負債及び正味財産合計 39,637,122円

トピックス

毎年のことでもありましようが、夏の花の代表として「ひまわり」向日葵とも言われ、今頃は全国各地で大きな花を咲かせていることでしょう。

そこで今日は、「ひまわり」についてお話したいと思います。

「ひまわり」というと何を想像することでしょう？

一般的には花は南の方向の太陽に向かって咲くイメージ、大型のものでは3メートルの長さにもなります。大きな花は小さな花が集まって出来たもので、キク科の1年草であり、ひまわり畑に出くわすと思わず黄色いジュウタンが敷き詰められた光景を目に、思わず綺麗と叫んでしまいそうではないでしょうか。日本では、時々スーパーの店頭でひまわりの種の実として販売されていることがあります。多くは観賞用として、ヨーロッパ、ロシア等では種を油に取り油糧作物として重宝されています。

このごろでは、200～300円で小さな品種も出回り楽しめます。こまめに水をやるのが楽しめる条件のようであります。今年は時期的に間に合いませんが、来年の4月ごろから5月ごろに準備されますと、結構楽しめる花ではないでしょうか。

会員だより

琴修会千歳支部長 平柳 澄

理事長表彰状授賞式を終えて

平成21年6月3日、名古屋ガーデンパレスで名誉ある受賞者42名の一員に入れて頂きました。

私と大正琴音楽＝琴修会とのつき合いは二十数年程になりました。色々な事が思い出されますが、会員さんの暖かさ、落ち着いた優しい心配りにあふれていたように思われた事でした。居心地が良いのです。その当時は皆さんは私の母や姉のようで家族の中に自然と入って行くようだったのでしょうか。今は私も母や姉の年齢になりました。今まで、楽しい事はいっぱいありましたが同じ位悲しい事、又苦しい事もありましたが、お陰様で琴修会の総本部統括本部各支部長さん会員さん、等々、多くの方々の御支援御協力を頂き今日に至る事は感謝の気持ちでいっぱいです。

北海道の大地から今までの感謝の気持ちと初心を忘れる事なくこれからも、大正琴音楽と長くかかわれるように精進して参りたいと思います。

皆々様に感謝それからありがとうございました。



研修会の開催報告

演題「育てるよろこびと日本人のありかた」

平成20年度指導者研修会を平成21年3月4日（火）に、岐阜聖徳学園大学講師の山田隆先生とお招きして開催しました。会場は埼玉県さいたま市のホテルブリランテ武蔵野で、とても居心地の良い会場でしたが、山田先生の巧みな話術で笑い声も生まれ、終始居眠りも無く聞き入りました。

今回の講演は次のような内容でした。

- ・育てることは学ぶことである。
- ・謙虚さが指導力につながる。
- ・孫弟子の育つ集団には活気がある。
- ・指導とは相手を認め自分を認めることに始まる。

以上のような内容でしたが、いろいろな角度からたくさんの実例を挙げて話されました。その中から話題になったいくつかの事例を書き出しておきます。



技術的にはとてもかなうはずのない若者を相手に、いろいろな理屈を付けて自分を優位に見せようとする指導者を見かけるが、これほど見苦しいものはない。相手も認めず自分も認めようとしない、こんな態度では指導などありえない。「よく弾けるね、協力するのでお弟子さんを作りなさい・・・」といえるような指導者でありたいね。

ある時社長さんのお宅に何うと、奥さんまで社長さんと同じ態度で「〇〇君」などと呼ばれると滑稽になってしまうことがよくある。必要以上に卑下することは肩を張って威張ること以上に信頼を失うが、謙虚さからは信頼も生まれ師弟関係もほほえましいものになる。謙虚さは人間関係の潤滑油だと思う。日本人の人間的な美しさはこの謙虚さにあると思う。

弾けないところは自分が一番よく知っているので指導者が指摘する必要はない。弾けるところを認めているうちに集団の中でゆっくりと弾けるところが増えていくのが集団を育てる力。集団の中で育てるには「して見せて、させて認めて、競わせて」を生徒が意識しない程度にする雰囲気を作るのが優れた指導者だと思う。

最後に育てることは、技術ではなく音楽性を磨いて優れた指導者になってほしい。

平成21年度理事長表彰受賞おめでとうございます

社団法人「大正琴協会表彰規程」に基づき、規程第2条3項及び4項により平成21年6月3日、下記の42名の皆さんが受賞されました。(敬称略)

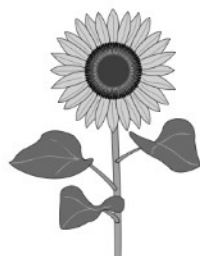
第2条3項(2名)

宇津木宏美 福島県東白川郡棚倉町
竹川弘之 広島市安佐北区亀崎

第2条4項(40名)

石崎美由紀 三重県伊賀市緑が丘西町
磯部光代 静岡県富士市鷹岡本町
関根栄子 秋田県能代市万町
竹谷栄子 新潟県五泉市本町
平柳澄 北海道千歳市花園
宮村典子 石川県金沢市神谷内町
長野テル子 新潟市中央区女池上山
猪股節子 新潟県阿賀野市金田町
大神朋子 滋賀県草津市矢橋町
宮地洋子 滋賀県大津市南郷
馬場祥子 広島県安芸郡府中町
丸尾紘子 香川県高松市太田上町
守谷太美子 愛媛県四国中央市川之江町
辻アエカ 熊本県天草市本渡町
山下幸代 熊本県阿蘇市一の宮町
小鹿つな子 名古屋市西区香呑町
山本範男 愛知県岡崎市堂前町
野口依月子 和歌山県和歌山市新中島
藤田紀久子 和歌山県海南市下津町
冷水世紀子 和歌山県和歌山市吉里
小上育代 和歌山県海南市下津町
塚田栄子 和歌山県和歌山市内原
西本純子 和歌山県海南市船尾
植田壽子 奈良県香芝市別所

源後キク 福島県郡山市富久山町
坪内喜子 長野県長野市青木鳥町
猪塚和子 香川県さぬき市津田町
伊藤弘 富山県水見市園
秋友清子 香川県さぬき市鴨部
小島悦子 福島県伊達市保原町
能登清美 富山県南砺市山見
立田和子 富山県黒部市若栗
真見杉 三重県名張市桔梗が丘
小泉美智子 長野県下伊那郡松川町
架場教子 岐阜県高山市一之宮町
戸川高子 東京都目黒区三田
井上美智子 広島県福山市赤坂町
米澤緑子 静岡県磐田市大立野
吉田裕子 三重県津市久居桜が丘町
山本裕子 浜松市東区市野町



今後の文化活動予定スケジュール

平成21年度全国子ども大正琴コンクール

日 程 平成21年8月23日（日）13時～16時
会 場 名古屋市港文化小劇場
名古屋港区港楽2-10-24
電話052-654-8214

第21回全国生涯学習フェスティバル大正琴合同演奏会

日 程 平成21年10月31日（土）10時～17時
会 場 大宮ソニックシティ 大ホール
さいたま市大宮区桜木町1-7-5
電話048-647-4111

第34回通常総会

日 程 平成21年12月2日（水）
会 場 メルパルク東京
東京都港区芝公園2-5-20
電話03-3459-5501

小中高等学校における大正琴伝承教育の実施

期 間 平成21年4月から平成22年2月まで

平成21年度指導者研修会

日 程 平成22年3月3日（水）13時30分～15時
会 場 ホテル パールガーデン
香川県高松市福岡町2-2-1
電話087-821-8500



編集後記

今、「60歳の手紙」の映画並び書籍が人気を呼んでいます。今まで「60歳の手紙」の題の基、第1回から9回まで募集が行われ書籍も8冊発行、8万6441通寄せられたとか。何故そこまでも人気や関心が高まっているのでしょうか。数々の手紙を読んで感じたことは、たった1枚のはがきに、心に刻む言葉が各所に多く紹介され夫婦愛というもの美しく描かれているところに人気がありそうです。